

リンゴ樹 雑草が守る？

弘前大学農学生命科学部のムラノ千恵研究機関研究員(45)顔写真
真一らの研究グループが、ネズミによるリンゴの木への被害を防ぐ手
掛かりにしようと、冬の間のリンゴ園でハタネズミが何を食べてい
るかを調べた。一般的に雑草として取り除くことが多い「ギンギン
(通称シンペ)」が、晩冬から早春にかけてのネズミの主要な餌と
なって、リンゴの木への被害を減らしている
可能性が示された。ムラノ研究員は「ギン
ギンを根こそぎ取り除かずバランスよく許
容することで、リンゴの木を守ってくれる
かもしれない」と語る。(伊藤ほなみ)



弘大ムラノ研究員ら被害調査



リンゴの木への被害で農家を悩ませているハタネズミ



ハタネズミが冬の間の主要な餌としていることが分かったギンギン(ともにムラノ研究員提供)

冬期 ネズミの主要な餌



ネズミのふんを採取するため冬のリンゴ園に設置した装置(ムラノ研究員提供)

リンゴ栽培では、ギンギンは栄養を吸収する力が強くリンゴの栄養を奪うため「取り除くべき」というのが定説。背丈も高く伸びるためネズミが天敵から身を隠しやすい。農家の間で「ギンギンがあるとネズミが増える」とも言われてきた。

ムラノ研究員らのグループは、2018年11月から21年5月にかけて八つのリンゴ園にわなを仕掛け、ネズミのふんを採取。集めた60サンプルのDNAを解析し、ネズミがどのくらいの割合で何を食べているかを調べた。

その結果、冬の始まりに

が、ギンギンがある園地ではギンギンの方をたくさん食べていた。

今後、園地の植物量、ネズミの数、積雪深などのデータも組み合わせて調査を進め、実際の被害との関係や、どのくらい植物を残すべきかのバランスなどを探る考え。この成果は、7月18日付で生物学の国際誌に掲載された。

ムラノ研究員は「リンゴの木への被害を防ぐには、できるだけネズミの数を減らすという考えが主流だったが、ネズミも必死で生きているのでそれだけでは難しい。春から夏は草を刈るけれど、冬には餌になる草を残す『北風と太陽作戦』も一つの手かもしれない」と話した。

上記の画像は、当該ページに限って”東奥日報”が利用を許諾したものです。無断転載はできません。